

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC2M1C03 ピアノⅢ	田中 幸子・塩津 貴子・住江 智子 吉良 千波・光永 育	クラス分け	1単位	こども学科 2年次	前期	必修			選択必修	BDEF
授業のテーマ及び到達目標										
子どもの感性の発達に役立つ、子どもに寄り添った音楽を探索する。3、4年次の保育実習、幼稚園教育実習、施設実習を視野に入れて課題曲を確実に暗譜する。幼児を前にしている想定で演奏することを習慣づける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 童謡の意義の振り返り タッチと音色	シラバスを読む。 明るく元気な音を身につける	レッスンカードの使い方を確認、毎週の練習計画	9	歌詞の情景とフレーズ 季節の歌	歌詞の長い曲は表現内容を考えながら練習する	簡易版のない伴奏の編曲の仕方を見につける		
	2	二長調のコードとベース 園生活の歌・登園	ハ長調と二長調のコードを練習しておく	ベース伴奏も並行して使えるようにする	10	ハ長調のコードとベース 生活・行事の歌	編以外で耳にする曲や歌は分析的に聴きみする	ベースの表現の重要性を意識する。		
	3	息づかいとフレーズ 春の抒情的な歌	歌詞読みをして生活の歌との違いを感じ取る	情景を表す音楽的表現を身につける	11	前奏を効果的に用いる よく知られた童謡	フレーズの区切りと歌詞の関係を考え譜を読み込む	スタッカートの切り方で表現が変わることを学ぶ		
	4	問と答え 抒情的対話の歌詞	フレーズの位置や区切り方を考え語り掛ける表現を学ぶ	親子・愛情・絆に関する童謡や歌をまとめる	12	マルカートとレガート 音の高さと音色	前奏が歌の旋律やリズムを含まない曲の練習法を考える	自己の表現方針・方法を決め編曲し仕上げる		
授業の概要										
ピアノⅠ、Ⅱで学修したピアノ実技の基礎に、新たな課題曲で子どもの感性の発達に役立つ音楽的表現を深めるための個人レッスンをを行う。	5	付点リズムの連続と拍感 生活の歌	軽快な付点リズムの旋律を自由に弾けるよう練習する	アクセントにより表現が変わることを感じ身につける	13	変拍子に慣れる 生き物の歌	拍子が変わる曲の拍子を確認し理解して譜読みをする	特色を持った歌は園児に与える影響を考え表現する		
	6	ピアノの基礎訓練 主旋律と伴奏形のバランス	片手・部分練習で技術を上げフレーズや・形式を学ぶ	フレーズ感・呼吸を意識し表現に繋げるようにする	14	同名の曲・複数のペンネーム 夏の歌	作詞・作曲者を丁寧に調べ曲の背景を知る	弾きやすくなるコードの分散やリズムの練習法を考える		
	7	成果発表 個別の目標を立てる	人に伝える、気持ちを込める等を意識して練習する	発表を聴き、感想・意見を述べ、自分の演奏を振り返る	15	表現の振り返り まとめ	実技試験課題曲の表現方法を整理し暗譜に取り組み	子どもの感性を高める表現に努め、完全に暗譜する		
	8	情景に合わせた強弱の解釈 楽譜の読み取り	教科書以外の楽譜も調べ自分に合う伴奏形で練習する	曲の強弱の変化を読み取り、表現に反映させ身につける						
教科書・テキスト等	ポケットいっぱい（鈴木恵津子・富田英也編著 教育芸術社）、こどものうた200（小林美実編 チャイルド社）、続・こどものうた200（小林美実編 チャイルド社）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等	日本童謡200選（日本童謡協会編 音楽之友社）、音楽リズム・幼児の歌（小林美実編 東京書籍）				期末試験（ピアノ実技） 平常点	80% 20%	テンポ、フレーズ感 毎回の練習状況、レッスンへの取り組み姿勢			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC2M1C04 ピアノⅣ	田中 幸子・塩津 貴子・住江 智子 吉良 千波・光永 育	クラス分け	1単位	こども学科 2年次	後期	必修			選択必修	BDEF
授業のテーマ及び到達目標										
童謡を内容（言葉・歌詞、音楽性、情景・情感）から深く学ぶことにより、心身の発達を促す教材であることを認識する。子どもの歌の伴奏としてふさわしい表現ができること、そして基本の技術が伴った演奏ができるようになる。保育現場で通用する演奏を目指し、指定された曲を確実に暗譜で演奏する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション ピアノⅠ～Ⅲの総括	自己の到達度を振り返り課題を振り返る	よりよいレッスンカード活用方法を考える	9	ト長調の分散和音 冬の行事の歌	ト長調のコードを復習しておく	アフタクトの開始図に慣れる		
	2	ハ長調の分散和音 行事の歌	躍動感のある明るい音のための打鍵と拍子感を練習	確実な暗譜、幼児を見ながら演奏できるようにする	10	付点リズム 冬の軽快な歌	単純な音取りに終わらず、譜読みをする大切さを知る	付点リズムの軽快さを自然に出せる訓練法を考える		
	3	二長調のコード伴奏 園生活の歌・登園	合理的な運指を学習しておく	同名の他の曲についても調べて練習	11	両手伴奏とベース伴奏 元気な童謡	基本コードから少し発展させたC6について調べ練習	オリジナル又はそれに近い前奏をつける意義を考える		
	4	コードの形が変わる伴奏 園生活の歌・降園	アルペルティバスのみ、分散和音のみで伴奏しておく	伴奏部分と歌のない後奏部分のバランスや奏法を研究	12	旋律の弾き方・連打 リズムカルな歌	旋律のフルフェーজの予習をしつかりする	旋律のリズムが細かい曲で効果的に音を削る方法を模索		
授業の概要										
ピアノⅢまでに学んだ表現法の発展のために、音楽理論やソルフェージュも駆使して、基礎訓練を含んだ個人レッスンをを行う。曲の構成や背景、歌詞を調べて実技練習と臨む。課題は確実に暗譜すると共に、子どもに向き合う想定に慣れるよう指導する。	5	語りかける表現と音色 童謡の名曲	歌詞の内容とアーティキュレーションに気を付けて弾く	フレーズをしっかり読み取り歌詞に合った世界観を研究	13	6/8拍子を考える 行事の歌・お別れ会	ハ長調のコード伴奏（分散和音）を飛ばないように練習	左右の音符数、旋律と伴奏（役割）のバランスを研究		
	6	付点リズムの順次進行 秋のあそび歌	ハ長調の分散和音を整理し、無駄のない右の運指を練習	園児と一緒にリズムカルに弾き歌いできるようにする	14	ハ長調のベース伴奏 行事の歌・卒園	旋律とベースを別々に練習してコードを書きこむ	両手伴奏による弾き歌いに発展させる		
	7	音の風物詩 秋の抒情的な歌	オリジナル楽譜を調べ、楽譜や表記法を知る	原調＝長調と園児向けのハ長調を練習	15	ピアノⅣの振り返り まとめ	旋律と歌詞、フレーズとフレーズを大切にしながら暗譜	童謡の目的、効果、勉強法をまとめ		
	8	連弾 アンサンブルを楽しむ	自分のパートの個人練習に責任を持って取り組む	お互いの演奏を注意深く聴き、意見を交わらせるよう研究						
教科書・テキスト等	ポケットいっぱい（鈴木恵津子・富田英也編著 教育芸術社）、こどものうた200（小林美実編 チャイルド社）、続・こどものうた200（小林美実編 チャイルド社）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等	日本童謡200選（日本童謡協会編 音楽之友社）、音楽リズム・幼児の歌（小林美実編 東京書籍）				期末試験（ピアノ実技） 平常点	80% 20%	テンポ、フレーズ感、「さんはい」等かけ声 毎回の練習状況、レッスンへの取り組み姿勢			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2M1C03 合唱Ⅲ	菊村 隆史	単独	2単位	音楽学科・こども学科 2年次	前期	必修				ABCDEF

授業のテーマ及び到達目標		授 業 計 画						
回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修	
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる 授業の概要 コダリー・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む。	1	ガイダンス 授業計画発表・学修内容の説明・パート編成分け	シラバスを確認	計画を立てる	9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲Aの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	2	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習①呼吸のコントロールと発声のメカニズムについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲Aの実習、発語（ディクショ）ンについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	3	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習②安定感のあるブレスに立脚した声について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲Bの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	4	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習③様々なパッセージを歌唱し自らの声と音域について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲Bの実習、発語（ディクショ）ンについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	5	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習① 移動ト唱法とソルミゼーションその1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	6	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習② 移動ト唱法とソルミゼーションその2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	7	アンサンブル・テクニックの修得とその応用①単旋律聖歌、オルガスム等を用いて完全4度または完全5度の響きを味わい音程感覚を養う。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	前期の総括	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	8	アンサンブル・テクニックの修得とその応用②カノン、オスティナート、2～3声の楽曲、様々なコーラス・アンサンブルの研究をする。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習				
教科書・テキスト等	必要に応じて配布、または個人購入して使用する、詳細は授業時に指示する。			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント	
参考書・参考資料等					課題演奏 課題 / レポート	50%	演奏に学修課題を活かしている 合唱曲、アンサンブルについての考察	
					平常点（態度・行動観察）	20%	授業態度、積極的な取り組み	

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC2MIC04 合唱IV	菊村 隆史・桑原 理恵・村橋 和子	複数	2単位	音楽学科・こども学科 2年次	後期	必修				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
1	ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和声の感覚を養うトレーニングに取り組む	シラバスを確認	計画を立てる	9	楽曲演奏と実習⑧ 組曲第8曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習			
2	楽曲演奏と実習① 組曲第1曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と実習⑨ 組曲第9曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習			
3	楽曲演奏と実習② 組曲第2曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習			
4	楽曲演奏と実習③ 組曲第3曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究⑪ 全曲通し練習その2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習			
授業の概要 コダリー・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む。	5	楽曲演奏と実習④ 組曲第4曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	リハーサル	既習事項のまとめと練習	課題に基づき復習・反復練習		
	6	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第5曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	演奏会	既習事項のまとめと練習	課題に基づき復習・反復練習		
	7	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第6曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	総括と反省	既習事項のまとめと練習	合唱音楽についてまとめる		
	8	楽曲演奏と実習⑦ 組曲第7曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習						
教科書・テキスト等	必要に応じて配布、または個人購入して使用する、詳細は授業時に指示する。			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					課題演奏 課題 / レポート	50%	演奏に学修課題を活かしている 合唱曲、アンサンブルについての考察			
					平常点（態度・行動観察）	20%	授業態度、積極的な取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC2MIN24 幼児合奏指導Ⅰ	木野 聖子	複数	2単位	こども学科 2年次	前期	必修			選択必修	ADEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
幼児教育で扱う打楽器の基本的な奏法を習得し、人と合わせるためのリズム・ソルフェージュを通して合奏を行うための基礎を身につけることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーションと授業の進め方についての説明	シラバスを読む。	授業に備える。	9	グループによるリズム・ソルフェージュの学習と打楽器のアンサンブルの練習③。	自分の担当パートの確認	授業内容の復習		
	2	基本的なリズム・ソルフェージュと現場で使用する打楽器の様々な奏法および調整の仕方の学修①。	現場で使用する楽器の種類を考える。	授業内容の復習	10	打楽器のアンサンブルの練習④。	自分の担当パートの確認	授業内容の復習		
	3	基本的なリズム・ソルフェージュと現場で使用する打楽器の様々な奏法および調整の仕方の学修②。	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習	11	打楽器のアンサンブルの練習⑤。	自分の担当パートの確認	授業内容の復習		
	4	基本的なリズム・ソルフェージュと現場で使用する打楽器の様々な奏法および調整の仕方の学修③。	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習	12	打楽器のアンサンブルの練習⑥。	発表会の練習	授業内容の復習		
授業の概要	5	基本的なリズム・ソルフェージュと現場で使用する打楽器の様々な奏法および調整の仕方の学修④。	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習	13	打楽器のアンサンブルの練習⑦。	発表会の練習	授業内容の復習		
授業を前半と後半に分け、前半ではリズム・ソルフェージュを行い、後半では打楽器奏法の基礎を学ぶ。現場で必要となる様々な打楽器に触れ、こどもたちの音楽性を伸ばす技術を身につけるとともに、協調性や社会性など幼児期に必要な資質を育む基礎を学ぶ。	6	基本的なリズム・ソルフェージュと現場で使用する打楽器の様々な奏法および調整の仕方の学修⑤。	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習	14	発表会	発表会の練習	発表会の振り返り		
	7	グループによるリズム・ソルフェージュの学習と打楽器のアンサンブルの練習①。	自分の担当パートの確認	授業内容の復習	15	まとめ～これまでの流れを振り返り、授業内容を復習する。	これまでの授業内容の振り返り	学修のまとめとしてレポートを作成する。		
	8	グループによるリズム・ソルフェージュの学習と打楽器のアンサンブルの練習②。	自分の担当パートの確認	授業内容の復習						
教科書・テキスト等				成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等	授業中に適宜指示				平常点(積極性、理解度) 課題 / レポート 発表会の評価	60% 20% 20%	事前・事後学修に基づく授業への参加態度 レポート書式での作成、テーマに沿った内容 パフォーマンスとしての完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
幼児合奏指導Ⅱ	木村 博子	単独	2単位	こども学科 2年次	後期	必修			選択必修	ACDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
リード楽器(鍵盤ハーモニカ)を用いる幼児合奏の指導ができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーションと授業の進め方についての説明	シラバスを読む。	教科書を読む。	9	グループによるリード楽器と打楽器のアンサンブル練習②	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習		
	2	鍵盤ハーモニカの奏法を学ぶ①。	教科書で鍵盤ハーモニカの奏法を予習する。	授業内容の復習	10	グループによるリード楽器と打楽器のアンサンブル発表	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習		
	3	鍵盤ハーモニカの奏法を学ぶ②。	課題曲を練習する。	授業内容の復習	11	幼児合奏指導について	幼児の発達段階を調べる。	授業内容をレポートにまとめる		
	4	鍵盤ハーモニカの奏法を学ぶ③。	課題曲を練習する。	授業内容の復習	12	グループによるリード楽器と打楽器のアンサンブル練習①	課題曲を予習する。	授業内容の復習		
授業の概要	5	鍵盤ハーモニカを含む合奏①。	課題曲を練習する。	授業内容の復習	13	グループによるリード楽器と打楽器のアンサンブル②	発表会の練習	授業内容の復習		
リード楽器(鍵盤ハーモニカ)の奏法と幼児合奏における使い方を学ぶ。他の楽器との合奏を通して聴力を育み、こどもたちの協調性と社会性を涵養する。基礎としてのリズム・ソルフェージュも毎回行う。	6	鍵盤ハーモニカを含む合奏②	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習	14	グループによるリード楽器と打楽器のアンサンブル練習③	発表会の練習	授業内容の復習		
	7	鍵盤ハーモニカを含む合奏③	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習	15	発表会とまとめ	これまでの授業内容の振り返り	まとめのレポートを作成する。		
	8	グループによるリード楽器と打楽器のアンサンブル練習①	課題曲を予習する。	授業内容の復習						
教科書・テキスト等	『保育で使える合奏楽譜ベストセレクション』(ひかりのくに)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等	鍵盤ハーモニカは各自で準備して下さい				平常点(積極性、理解度) 課題 / レポート 発表会の評価	50% 30% 20%	事前事後学修に基づく授業への参加態度 レポート書式での作成、テーマに沿った内容 パフォーマンスとしての完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC2M3N26 幼児合奏指導Ⅲ	木村 博子	単独	2単位	こども学科 3年次	前期	選択			選択必修	ADEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
楽器演奏と身体的動きを組み合わせたパフォーマンスができる。美しい立ち居振る舞いができ、自信を持って子供の前に立つことができる。フォーメーションを考案し、こどもたちを指導することができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション	シラバスを読む	配布資料を読む	9	自由曲による創作②	前時の続きを考える	授業内容の復習		
	2	身体を作る①～姿勢、立ち方、脚と手の動きの基礎	配布資料の身体の動きを実践する	授業内容の復習	10	自由曲によるグループ創作①	曲と振り付け、使用楽器について考える	授業内容の復習		
	3	身体を作る②～方向、足の運び、回転	身体の動きを復習する	授業内容の復習	11	自由曲によるグループ創作②	自分の担当パートの練習	授業内容の復習		
	4	「ラ・フォリア」の練習。カスタネットのリズム練習	カスタネットの様々な奏法を復習する	授業内容の復習	12	自由曲によるグループ創作③	発表会の練習	授業内容の復習		
授業の概要	5	「ラ・フォリア」のパターンによる創作①	足の運びとカスタネットのリズムを考える	創作内容を紙にまとめる	13	自由曲によるグループ創作④	発表会の練習	授業内容の復習		
	6	「ラ・フォリア」のパターンによる創作②	腕の位置と方向を考える	創作内容を紙にまとめる	14	発表会	発表会の練習	発表会の振り返り		
	7	「ラ・フォリア」のパターンによる創作③	フォーメーションを考える	創作内容を紙にまとめる	15	まとめ～これまでの流れを振り返り、授業内容を復習する	これまでの授業内容の振り返り	学修のまとめとしてレポートを作成する		
	8	自由曲による創作①	曲とダンスの種類、使用楽器を考える	授業内容の復習						
教科書・テキスト等	プリント配布			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等	カスタネットは各自で準備すること				平常点(積極性、理解度)	60%	事前・事後学修に基づく授業への参加態度			
					課題 / レポート	20%	レポート書式での作成、テーマに沿った内容			
					発表会の評価	20%	パフォーマンスとしての完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC2M3N27 幼児合奏指導Ⅳ	木村 博子	単独	2単位	こども学科 3年次	後期	選択			選択必修	ADEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
楽器演奏つきの短い音楽劇を創作することができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション	シラバスを読む	既存教材に目を通す	9	音楽劇創作③～合わせ練習	自分の担当の練習	授業内容の復習		
	2	既存曲の練習①	担当部分を練習する	授業内容の復習	10	音楽劇創作④～合わせ練習	自分の担当の練習	授業内容の復習		
	3	既存曲の練習②	担当部分を練習する	授業内容の復習	11	音楽劇創作⑤～合わせ練習	自分の担当の練習	授業内容の復習		
	4	既存曲の練習③	全体の流れを把握する	授業内容の復習	12	音楽劇創作⑥～発表会への準備	セッティング等考える	授業内容の復習		
授業の概要	5	既存曲の練習④	発表会に向けた練習をする	授業内容の復習	13	音楽劇創作⑦～発表会への最終調整	本番に向けた準備	授業内容の復習		
これまでの総合として、楽器演奏つきの短い音楽劇を創作し、4年次の卒業研究(ミュージカル)に備える。ポール・ノードフの『マザー・グース』から「ジャックとジル」または既存の幼児向けオペレッタを例として学習した後、自ら題材を創作または、既存曲を組み合わせる音楽劇を創る。	6	発表会	発表会に向けた練習をする	発表会の振り返りをまとめる(レポート1)	14	発表会	本番に向けた準備	授業内容の復習		
	7	音楽劇創作①～担当を決める	原作を読み、構想を練る	自分の担当の創作	15	全体のまとめ	発表会の振り返り	授業のまとめ作成(レポート2)		
	8	音楽劇創作②～意見を出し合う	自分の担当の創作	授業内容の復習						
教科書・テキスト等	プリント配布			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等	保育で使える合奏楽譜ベストセレクション(ひかりのくに)				平常点(積極性、理解度)	60%	事前・事後学修に基づく授業への参加態度			
					課題 / レポート	20%	レポート書式での作成、テーマに沿った内容			
					発表会の評価	20%	パフォーマンスとしての完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC2M1XT28 ハーモニー I	中村 真貴	単独	2単位	こども学科 2年次	後期	必修			選択必修	CDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
本来の機能と和声の基礎を学び理解したうえで、幼児期の音楽教育によりよい影響と楽しさを与えることの出来る指導者を育成することを目標とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	音楽の成り立ち、主要三和音と副三和音	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする	9	歌唱曲（童謡）の分析と発展	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする		
	2	和音とコードネーム・キーボードハーモニー①スケール	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする	10	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル①伴奏してみる	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする		
	3	和音とコードネーム・キーボードハーモニー②カデンツ	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする	11	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル②調を変えて伴奏してみる	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする		
	4	和音とコードネーム・キーボードハーモニー③コード	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする	12	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル③メロディにコードをつける	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする		
授業の概要	ハーモニー I では、昨今の幼児の音楽環境に対応し実践力をつけるため、コードネーム、キーボード・ハーモニーの基礎を学び、簡易伴奏付け、弾き歌いへと発展させる。									
	5	和音とコードネーム・キーボードハーモニー④これまでの復習	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする	13	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル④メロディの調を変えてコードをつける	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする		
	6	コードネームによる和音の連結（属7を含む）	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする	14	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル⑤復習	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする		
	7	I . IV . V . V7による伴奏付け	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする	15	まとめ（総復習）	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする		
	8	コードネームによる童謡の伴奏付け（片手伴奏、両手伴奏）	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする						
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					期末試験 課題/レポート 平常点（態度・行動観察）	60% 20% 20%	実技試験 課題への取り組み 受講態度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC2M3N30 マーチング指導法	原 幸雄	単独	1単位	両学科 3年次	前期	選択				CDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽的・体的・精神的・社会的な教育効果が考えられるマーチングについての基本動作やコンビネーションを体得する。コンテ作成の考え方を学ぶ。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	基本動作1（3級必修単位） 美しい姿勢、静止間の方向変換	シラバスを熟読	静止間の方向変換を練習	9	コンテ作成1 デザインペーパーの理解。記号とのリンク	コンテ用紙、記号表を準備する	配布の簡単なルーティーンを解答しておく		
	2	基本動作2 L字動作で前進、足踏み、方向変換の行進間動作	L字動作順列の予習	L字動作を練習する	10	コンテ作成2 音楽との同期 ペーパートレーニング	ペーパートレーニングについて疑問点をまとめる	配布の楽譜を見ておく		
	3	ドリルパターン1 4人組のピンフィール（RP、LP） トリックスピン（RTS、LTS）の演習	L字動作を完成させておく	RP、LP、RTS、LTSの練習	11	コンテ作成3 楽曲に合わせたコンテの作成	配布の楽譜の構成を調べる	コンテを完成する		
授業の概要	マーチングを教育の一環として捉え、コンテの書き方、実技指導法を習得することを目標とする。日本マーチングバンド協会制定の3級指導員」ライセンス取得。									
	4	ペーパートレーニング（3級必修単位） デザインペーパーの理解。記号とのリンク	コンテ用紙、記号表を準備する	配布の簡単なルーティーンを解答しておく	12	ドラムメジャー 基本操法1 ドラムメジャーの任務と役割。持ち方、方向変換サイン	配布資料の熟読	本時の内容を練習		
	5	コンビネーション1（3級必修単位） ドリルパターン1を組み合わせて、実際のドリルへの結びつき	RP、LP、RTS、LTSの記号の予習	コンビネーション1の組み合わせの例題練習	13	ドラムメジャー 基本操法2 パレードに必要な演奏開始等のサイン	配布資料の熟読	本時の内容を練習		
	6	コンビネーション2（3級必修単位） ドリルパターン2を組み合わせて、実際のドリルへの結びつき	クロスオーバー、MM系等の記号の予習	コンビネーション2の組み合わせ課題練習	14	ドラムメジャー 基本操法 パレードを想定したサインの実践	自分なりにパレードを想定したサインの練習	試験に向けた練習		
	7	マーチング理論1 マーチングの歴史、マーチング用語、記号	配布資料の熟読	用語、記号を覚える	15	まとめ（3級検定） L字動作、コンビネーション、筆記試験	コンテ提出	マーチング指導について考えをまとめる		
	8	マーチング理論2 構成と演出の考え方	配布資料の熟読	構成と演出についてまとめる						
教科書・テキスト等	講師作成の資料による。指導書			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験 筆記試験	50% 50%	基本動作の完成 指導者としての基本的な知識の理解			